

「3桁の数の引き算」くり下がりのやり方と筆算の書き方を解説

3けたの数のひき算（くり下がりのない筆算）のやり方

384 - 172 の計算の仕方を考えてみよう

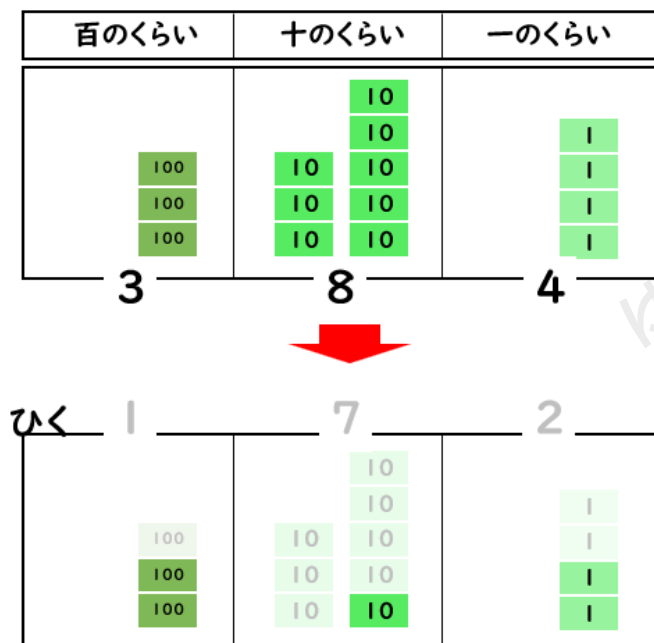
大きな数の計算をするときは、「筆算」をすると分かりやすかったね。筆算の書き方や計算のしかたは、2けたのひき算のときと同じだよ。

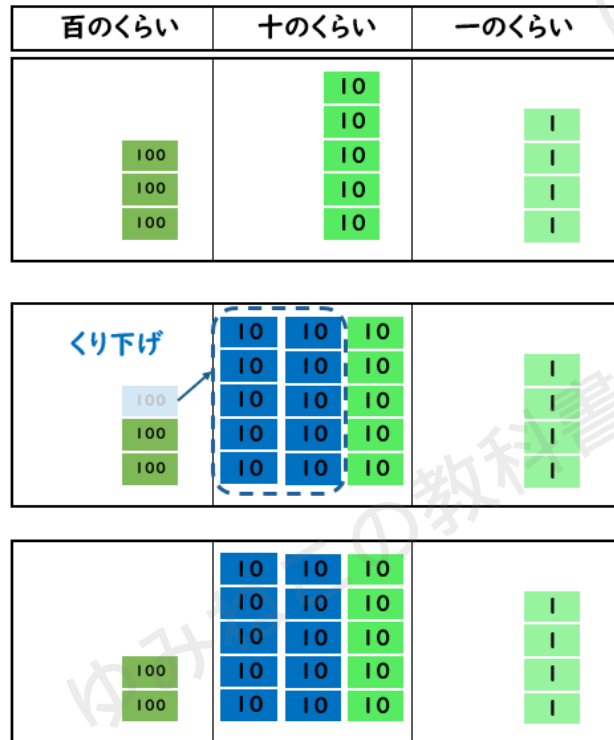
計算するときは、一のくらいから計算するんだったよね。

(一のくらい) $4 - 2 = 2$

(十のくらい) $8 - 7 = 1$

(百のくらい) $3 - 1 = 2$





すると、十のくらいの計算は、「 $15 - 7$ 」というひき算になるよ。
これなら、計算できそうだね。

十のくらいの計算は $15 - 7 = 8$ だから、十のくらいは 8 だよ。



3けたの数のひき算（くり下がりが2回）のやり方

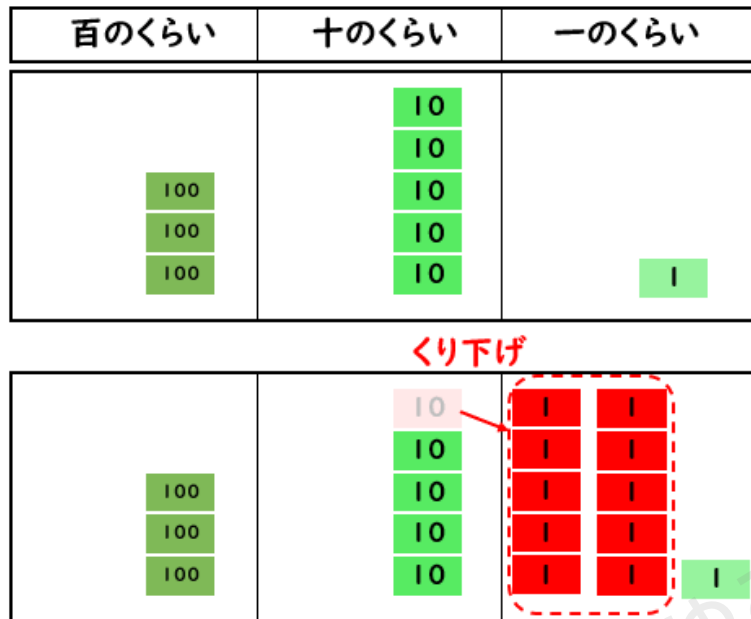
351 - 172 の計算の仕方を考えてみよう

計算するときは、一のくらいから計算するんだよね。

（一のくらい）

1から2はひけないから、一のくらいのひき算はできないよね。そんなときは、十のくらいから「10のかたまり」を1つ分だけもらってこよう。

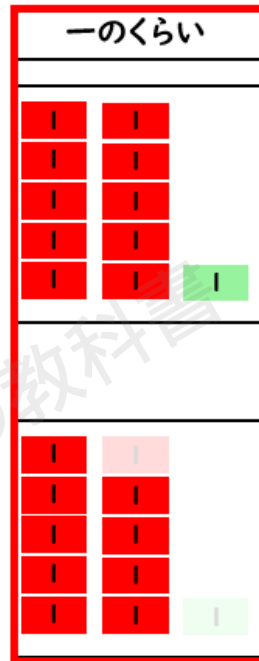
十のくらいから1つ分だけもらってくると、一のくらいはもとの「1」と、もらってきた「10」で、「11」になるね。



すると、一のくらいの計算は、「11 - 2」というひき算になるよ。これなら、計算できそうだね。



一のくらの計算は $11 - 2 = 9$ だから、一のくらは9だよ。



(十のくらい)

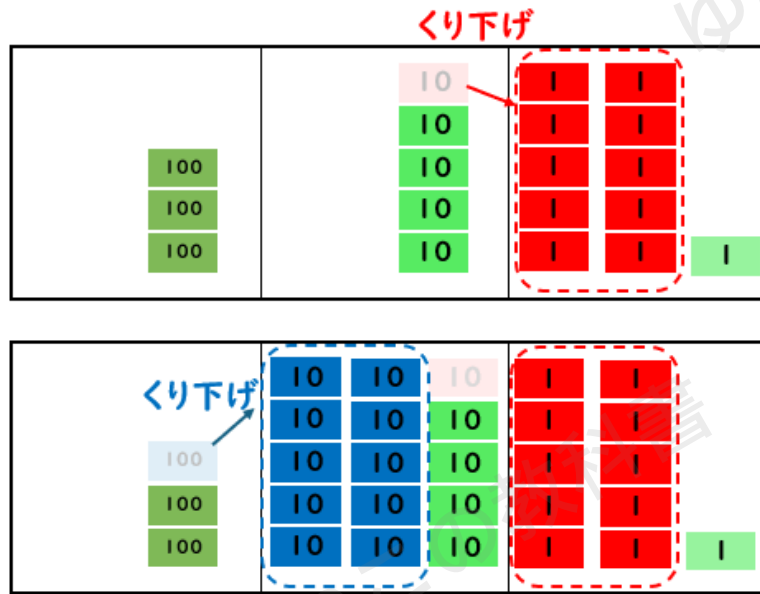
くり下がりをしたから、十のくらは「10のかたまり」を一のくらいに1つ分あげてしまっているよね。

だから、5つあった「10のかたまり」は4つになっているから気をつけようね。

4から7はひけないから、十のくらのひき算はできないよね。そんなときは、百のくらいから「100のかたまり」を1つ分だけもらってこよう。

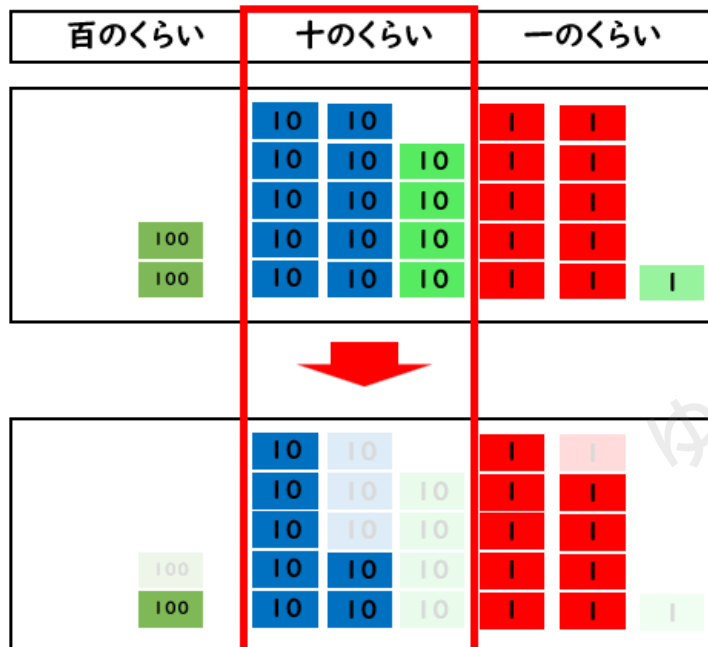
百のくらいからひとつ分だけもらってくると、十のくらはもとの「4」と、もらってきた「10」で、「14」になるね。





すると、十のくらの計算は、「14-7」というひき算になったよ。
これなら、計算できそうだね。

十のくらの計算は $14 - 7 = 7$ だから、十のくらは7だよ。

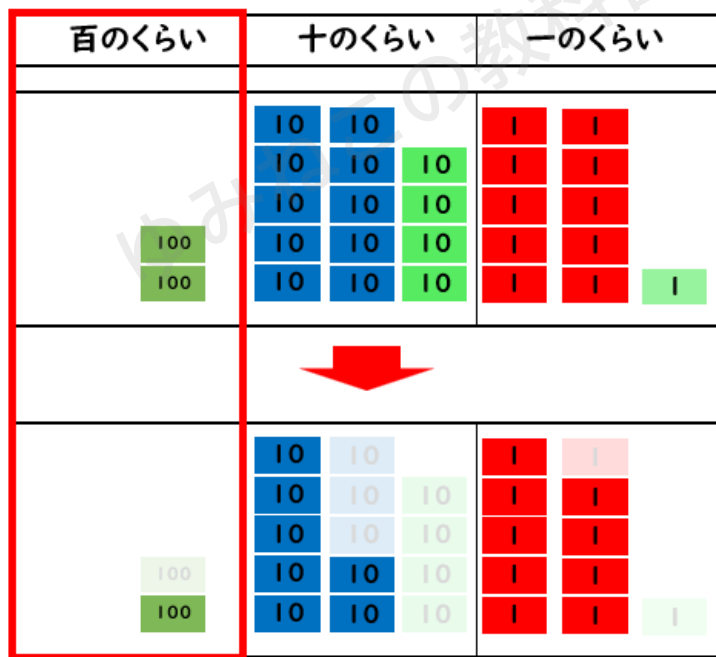


(百のくらい)

くり下がりをしたから、百のくらいは、「100のかたまり」を十のくらいに1つ分あげてしまっているよね。

だから、3つあった「100のかたまり」は2つになっているから気をつけようね。

百のくらいの計算は $2 - 1 = 1$ だから、百のくらいは1だよ。



筆算で書くと次のようになるよ。

	一のくらい	十のくらい	百のくらい
$\begin{array}{r} 351 \\ - 172 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 3451 \\ - 172 \\ \hline 9 \end{array}$	$\begin{array}{r} 23451 \\ - 172 \\ \hline 79 \end{array}$	$\begin{array}{r} 23451 \\ - 172 \\ \hline 179 \end{array}$
	1-2は計算できない	4-7は計算できない	
<p>くらいをたてに そろえて書く</p>	<p>十のくらいから 1くり下げる 11-2=9</p>	<p>百のくらいから 1くり下げる 14-7=7</p>	<p>2-1=1</p>



3けたの数のひき算の練習問題

976 - 254の計算をやってみよう。

計算するときは、一のくらいから計算するんだったよね。

(一のくらい) $6 - 4 = 2$

(十のくらい) $7 - 5 = 2$

(百のくらい) $9 - 2 = 7$

9	7	6		9	7	6		9	7	6	
-	2	5	4	-	2	5	4	-	2	5	4
							2		7	2	2

くらいをたてに

$6 - 4 = 2$

$7 - 5 = 2$

$9 - 2 = 7$

そろえて書く

535 - 293の計算をやってみよう。

(一のくらい)

$5 - 3 = 2$ だから、一のくらいの数は2だね。

(十のくらい)

3から9はひけないから、十のくらいのひき算はできないよね。そんなときは、百のくらいから「100のかたまり」を1つ分だけもらってこよう。

百のくらいからひとつ分だけもらってくると、十のくらいはもとの「3」と、もらってきた「10」で、「13」になるね。



すると、十のくらいの計算は $13 - 9 = 4$ だから、十のくらいは4だよ。

(百のくらい)

くり下がりをしたから、百のくらいは、「100のかたまり」を十のくらいに1つ分あげてしまっているよね。

だから、5つあった「100のかたまり」は4つになっているから気をつけようね。

百のくらいの計算は $4 - 2 = 2$ だから、百のくらいは2だよ。

	一のくらい	十のくらい	百のくらい
$\begin{array}{r} 535 \\ - 293 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 535 \\ - 293 \\ \hline 2 \end{array}$	$\begin{array}{r} 4535 \\ - 293 \\ \hline 42 \end{array}$	$\begin{array}{r} 4535 \\ - 293 \\ \hline 242 \end{array}$
くらいをたてに そろえて書く	$5 - 3 = 2$	百のくらいから 1くり下げる $13 - 9 = 4$	$4 - 2 = 2$

3-9は計算できない

431 - 133の計算をやってみよう。

(一のくらい)

1から3はひけないから、一のくらいのひき算はできないよね。そんなときは、十のくらいから「10のかたまり」を1つ分だけもらってこよう。

十のくらいから1つ分だけもらってくると、一のくらいはもとの「1」と、もらってきた「10」で、「11」になるね。

すると、一のくらいの計算は $11 - 3 = 8$ だから、一のくらいは8だよ。



(十のくらい)

くり下がりをしたから、十のくらいは、「10のかたまり」を一のくらいに1つ分あげてしまっているよね。

だから、3つあった「10のかたまり」は2つになっているから気をつけようね。

2から3はひけないから、十のくらいのひき算はできないよね。そんなときは、百のくらいから「100のかたまり」を1つ分だけもらってこよう。

百のくらいからひとつ分だけもらってくると、十のくらいはもとの「2」と、もらってきた「10」で、「12」になるね。

すると、十のくらいの計算は $12 - 3 = 9$ だから、十のくらいは9だよ。

(百のくらい)

くり下がりをしたから、百のくらいは、「100のかたまり」を十のくらいに1つ分あげてしまっているよね。

だから、4つあった「100のかたまり」は3つになっているから気をつけようね。

百のくらいの計算は $3 - 1 = 2$ だから、百のくらいは2だよ。

	$\begin{array}{r} 431 \\ - 133 \\ \hline \end{array}$	$\begin{array}{r} 4\cancel{2}31 \\ - 133 \\ \hline 8 \end{array}$	$\begin{array}{r} 34\cancel{2}31 \\ - 133 \\ \hline 98 \end{array}$	$\begin{array}{r} 34\cancel{2}31 \\ - 133 \\ \hline 298 \end{array}$
		$1 - 3 \text{ は計算できない}$	$2 - 3 \text{ は計算できない}$	
くらいをたてに そろえて書く	十のくらいから 1くり下げる $11 - 3 = 8$	百のくらいから 1くり下げる $12 - 3 = 9$	$3 - 1 = 2$	



「1000円を出したとき」のおつりをもとめてみよう

3けたのひき算のやり方と、筆算の書き方は かくにんできたかな？
ここで、「1000円を出したとき」のおつりがいくらになるか？の計算に
チャレンジしてみよう。

「1000円」は4けただけれど、これまでで学習してきたやり方をつかえ
ば、だいじょうぶ。

342円のおもちゃを買って、1000円さつを出しました。
おつりは何円ですか。

「おつり」というのは、「もどってくるお金」のことだから、1000円か
ら342円をひけばいいよね。

つまり、式で考えると

$1000 - 342$ を計算すればいいね。

$1000 - 342$ の筆算

4けたのひき算だけれど、これまでとおなじように一のくらいから計算して
いけば だいじょうぶだよ。

ただ、「1000」は、一のくらい、十のくらい、百のくらいがすべて
「0」なのでちゅういがひつようだね。

0から2はひけないから、十のくらいから1くり下げて・・・といきたいと
ころだけど、十のくらいも、百のくらいも「0」だからくり下げられない
ね。

なので、千のくらいに注目しよう。



千のくらいから次のようくり下げをするんだ。

		9	9	
	1	0	0	0
-		3	4	2
<hr/>				

どうなっているのかというと、千のくらいから一のくらいに「10」をくり下げています。

だから、一のくらいは「10」になるよ。

1000から10をもっていってしまったので、のこりは「990」。

だから、百のくらいは「9」、十のくらいも「9」になっているよ。

ここまでできれば、あとはいままでどおりだね。

(一のくらい) $10 - 2 = 8$

(十のくらい) $9 - 4 = 5$

(百のくらい) $9 - 3 = 6$

		9	9	
	1	0	0	0
-		3	4	2
<hr/>				
		6	5	8



「3けたの数のひき算のやり方と筆算の書き方」まとめ

今回は、「3けた－3けた」のひき算や「1000円を出したときのおつり」を筆算でもとめたよね。

もし、「4けた－4けた」「5けた－5けた」になったとしても、くり下がりの回数がふえるだけでポイントは同じだよ。

さい後にポイントをかくにんしておこう。

3けたの数のひき算のまとめ

- くらいをそろえて、一のくらいからじゅんばんにひき算する。
- くり下がりがあると、くり下げたくらいの数は1小さくなる

